

令和6年度 まちづくりの集い（石海地区）

概 要

日 時：令和6年9月13日（金） 19時00分から20時30分

場 所：太子町役場行政棟3階 ホール

令和6年度 まちづくりの集い 概要

1. 開催日時及び場所

日 時 令和6年9月13日(金)
開会：19時00分 閉会：20時30分
場 所 太子町役場行政棟3階 ホール

2. 町出席者

町 長 沖汐 守彦
副町長 榮藤 雅雄
教育長 糸井 香代子
総務部長 森 文彰
生活福祉部長 嶋津 一弥
経済建設部長 富岡 泰造
教育次長 福井 照子
経済建設部まちづくり課
課 長 三木 隆史

<事務局>

総務部企画政策課（まちづくりの集い所管課）

課 長 山崎 将
副課長 佐々木 悟
主 事 西林 知穂

総務部総務課（行財政改革所管課）

課 長 栗田 政知
副課長 高見 良
行革推進員 山本 紀弘

3. 参加者

太子町連合自治会
太子町PTA連絡協議会 など
計20名

4. 住民懇談・意見交換概要

別記にて記載する。

1. 開会あいさつ

沖汐町長

【開会あいさつ】

2. 町出席者紹介

山崎課長

【町出席者紹介】

3. 行政報告：持続可能なまちづくりに向けて一行財政改革の取組一

高見副課長

【説明】

4. 住民懇談・意見交換

住民 A

線路南側の石海南地区には各種店舗がほとんどなく、車に乗れない高齢者世帯の方が不便を感じられています。高齢になると免許の返納や車を手放すことも出てくるため、米田・沖代のまちづくり協議会の事業推進に非常に期待をしています。

商店の誘致等が進めば、隣接している吉福や塚森、竹広南の、特に高齢者の方には喜んでいただけたと思いますし、岩見構や太子ニュータウンからも揖保線の広い歩道で簡単に沖代地区まで行けるため、非常に便利になります。

また、日本全体が人口減少傾向にあり、太子町においても人口が減少することはやむを得ませんが、一方で太子町は非常に住みよい町だと思います。

JR や高速道路、自動車専用道路にしても便利です。災害は少なく、治安面も非常に良く、住みやすいところですので、人口減少の速度を少しでも緩やかにすべく、教育面や医療面等、若者を誘致するのであれば結婚祝金や出産に関する支援等、お金のかかる話ですが、今以上に住民の方が住みやすく、町外の方が移住したいと感じるような政策も行っていただき、若者の呼び込みなどに力を入れていただければと思います。

他の地域では過疎化が非常に進んでいる所もあると聞きますが、連合自治会の役員に話を伺うと、やはりかなりの勢いで過疎化が進んでいるようです。

先ほども申しあげましたとおり、太子町は住みよい町ではありますが、人口が減少することはやむを得ませんので、町の規模に応じた人口減少対策を行っていただき、できるだけ減少速度を緩やかにし、元気なまち太子町を継続することが大変肝要かと思えます。

富岡部長

まず米田・沖代地区の企業誘致の現況について説明します。

米田・沖代地区につきましては、兵庫県で揖保線という都市計画道路の整備事業を行っていて、この道路はたつの市と姫路市を結ぶ重要な幹線道路であり、東は勝原に繋がる道路です。

当該地域につきましては、市街化調整区域という建物を建設することが難しい地域ですが、地元の農業者も少なくなり、土地利用を図りたいとい

うご意向もあったため、令和 3 年頃から地元や兵庫県と協議を行っていますが、これだけ大規模な企業誘致は本町としましても初めてであり、その難しさを痛感しています。

現在、このエリアでは官民連携のもと、民間活力を生かした土地開発を進めていこうと考えていて、商業施設の誘致と、産業用地を設置し企業を誘致することを考えています。

揖保線につきましては、上下水道のライフラインを埋設する予定をしていますが、沖代地区では「沖代まちづくりプロジェクトチーム推進委員会」、米田地区では「まちづくり特別委員会」が創設され、現在では両委員会の合同チームで事業を推進しているところであり、今年度は地域で勉強会を定期的に開催するとともに、事業化検討パートナーというものを決定すべく動いています。

道路事業の整備が終わり次第、開発ができるように計画を進めていますが、道路事業の整備について当初の令和 7 年度の事業完了予定から、若干遅れているようです。

続きまして跨線橋についてですが、冒頭で申し上げましたとおり、現在、糸井高田橋が県の主体で設置されることとなり、この設置が完了すると 1.4km の間に 4 本の跨線橋がかかることとなります。

既に架設されている 3 つの跨線橋について、太子陸橋は 56 年、中道跨線橋は 42 年が架設から経過していることから、それぞれ多額の公費を投入し、修繕工事を行っていますが、架設から 56 年が経過している長金陸橋については、糸井高田橋の完成をもって廃橋に進める方向で考えています。

本来の耐用年数は 60 年の設計ですが、長寿命化を行うことで、架け替えまで 70 年は持たせようと対応しているところです。

JR を跨いだ 16 本の跨線橋を持っている山口県の周南市では、55 年経過したものについて、架け替え工事を行っていますが、撤去に 5 年、架設に 5 年の合計 10 年がかかり、費用についても当初計上されていた 60 億円から、資材や燃料費、人件費の高騰により、90 億円に跳ね上がったと伺っています。

県が事業を進めています糸井高田橋につきましても、架設にかかる事業費は 65 億円と公表されています。

本町において跨線橋 3 本を維持する場合、太子陸橋は 14 年後、長金陸橋については 17 年後、さらに中道跨線橋についても 10 年後には架け替えが必要となり 1 本の架け替えに 100 億円以上の費用がかかる想定ですので、当町のような小さな規模の自治体が跨線橋 3 本を維持していくということは、非常に困難であると判断しています。

竹広、竹広南、福地、米田、糸井南の各自治会の皆様には説明させていただき、意見もいただきながら、極力ご意見を反映できるように取り組んでまいりますので、皆様にはご苦勞、ご不便をおかけしますが、県が進めている糸井高田橋を利用いただくようお願いいたします。

長金陸橋については小学生が利用していますので、その迂回路整備に向

けて自治会や保護者の方、そして学校関係、警察の方にも現地を歩いていただき、理想的な整備の方針について意見をいただきながら、通学路の整備を進めています。詳細は改めて説明させていただきます。

続きまして網干駅周辺の糸井地区の取組です。当該地区につきましては、JR 茶ノ木踏切の糸井高田橋の高架事業と合わせて、本田冷蔵株式会社の東側を南北に結ぶ町道を拡幅する予定であり、姫路市でも網干線の工事が進められていて、一部供用の開始がなされています。

網干駅前についても、姫路市が区画整理事業を進めていて、さらに利便性が高まっていくことが想定されます。

糸井高田橋は令和 7 年度に完成予定と聞いていましたが、こちらも若干遅れていて、令和 9 年度に供用が開始見込みとのことです。

現在の道路整備事業と合わせて、糸井地区と 179 号線から東、龍野付近の土地に関して用途の見直しを行っています。糸井地区の県道付近は近隣商業地域というエリアですが、新しい道路の整備に伴い、近隣商業地域を拡大していこうと考えています。

今回の道路整備を受け、交通事情も大幅に変化しますので、道路構造に即した用途変更により商業施設や住宅等の適切な配置を進め、太子町の玄関口にふさわしい、魅力的な都市空間を創出できればと考えています。

この用途変更についても道路整備に合わせて実施していく事業であり、糸井南地区の皆様には用途を見直す際に情報提供をさせていただき、意見を伺いながら進めてまいりたいと思います。

太子町の玄関口である糸井地区を活性化することで、若い人に太子町に住みたいと思っていただけるよう、町としても事業を進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

住民 B

石海小学校には跨線橋を利用して通学している子どもが多いので、長金陸橋がなくなった場合に、安全に配慮した通学路の設定をお願いしたいとお伝えしようかと思いましたが、警察や地域の方と協議のうえ、事業を進められていると確認できたことが 1 点です。

長金陸橋の廃橋により、近くにお住いの方は不便に感じると思っていますので、沖代と米田地域への企業誘致や、糸井の用途地域の見直しによって跨線橋が廃橋となった分を補えるようなまちづくりをしていただきたいと思います。

また、インスタグラムで拝見しましたが、総合公園にバスケットゴールができたことについて、とても良いことだと思います。そのような場所が増えれば子どもたちも喜ぶかと思えます。

富岡部長

通学路に関しては、極力地域の意見を反映した整備を進めてまいりますので、PTA の方々もご協力をお願いいたします。

跨線橋がなくなり、皆さんにもご不便をおかけするかと思いますが、沖代・米田地区の企業誘致に向けて、町としても皆さんに喜んでいただける

ような進め方をしていきたいと考えています。

住民 C

糸井高田橋の架設に伴い長金陸橋を廃止するということですが、長金陸橋には横から上がることができる階段がある一方で、糸井高田橋にはなぜその機能がないのでしょうか。

長金陸橋廃止の説明の際には、私も現地に行かせていただいて、階段をつけてほしいとお話させていただいたところ、既に計画が進んでいて、用地買収や橋の強度に関する設計等をやり直すことは難しく、その代わりに線路横の道路整備をして、そちら側を使ってほしいという話でした。

自治会の役員は一期 2 年や 4 年と短いです。町のまちづくり課には通学路をどのようにするか、以前から検討していただきたかったです。通学路を整備するとのことでしたが、現地を歩かせていただいたうえで、小さい子どもも歩くので歩道を作ってほしいとお伝えしたところ、用地の関係でできないという回答でした。

今申し上げても遅いですが、これからもこのような事業がある場合には、前もって長期に渡り、よく検討していただかないと、ある程度事業が進んでから伝えられたところで、予算の関係や用地のこともあるので場当たり的なことしかできないと思います。

これからはそのような点もお願いしたいです。

町長

まちづくりを長期に渡り計画的に、石海南のブロック単位で考えるべきとのこと、もっともなご意見と思います。

この事業には私が町長になってからの動きもありますので、私の立場として言えることは、今の状況においてお伺いできるご意見はできるだけ反映しながら事業を進めていくということです。

特に石海南地区にお住まいの車を利用されない方々にとっては非常に厳しい状況ですので、踏切を狭くする一方で、歩行者や自転車、単車のみが通行できる形で、周辺整備に繋がるような整備を県と進めています。

いずれにしましても今後のまちづくりの際には先ほどのご意見を踏まえながら、丁寧に進めさせていただきます。

住民 D

私は線路の南側に住んでいますが、米田地区における高齢のご夫婦のみや単身世帯は約 15 世帯であり、他の地区ではさらに多いかもしれませんが、そのような方の大部分は車で買い物に行かれています。

10 年、15 年先に高齢者が車を使えなくなった場合を見据え、米田・沖代地区での土地開発にあたり、誘致すべき企業を選定する際の参考にしたいため、高齢のご夫婦のみや単身世帯の方々がどこへ行き、どう買い物しているのか実態調査をしていただきたいです。

余談ですが、個人的にはあのエリアに道の駅ができれば、毎日でも通いたいと思います。可能かどうかはわかりませんが、検討をお願いします。

森部長 生活の実態調査については、去年、総合計画と公共交通計画策定にあたりアンケートをとらせていただいていますので、その資料の活用を検討しながら、今後研究させていただきます。

町長 石海南地区については、私も免許返納した人たちが買い物や病院等で南から北に行くのに困っているという意見を聞いています。

町の車を使って、地域の方に運転手をしていただいて、お住いの方の買い物や病院の送迎を支援する制度を何自治会かが行っています。社会福祉協議会の方で運転手を育成していますので、集落単位で何か支援ができないか、社会福祉協議会と検討させていただきたいと思います。

お困りであることは承知していますので、何か支援ができればと考えています。

副町長 道の駅に関しましては研究もさせていただきますが、道の駅の設置による賑わいづくりには店舗の出店とその持続が必要であり、行政の立場としては、それよりも企業を誘致して雇用を創出し、増収を図ることが重要と考えています。

しかし、ご存じのように調整区域にも農業振興地域とそうでないところがあり、農業振興地域は用途を変更するハードルが非常に高いです。

現在、ほ場整備により農業を振興し、将来にわたって農業を継続すべく、農地を集約する手法をとっていますが、米田・沖代については農業振興地域ではない、比較的規制の緩い市街化調整区域であり、まとまった土地がある上に揖保線の延長と、様々な条件が整ってきましたので、そこを何とか活性化しようというような発想です。

道の駅も完全に否定するわけではありませんが、継続して研究させていただきます。

住民E 活性化をどう定義づけるかという答えが私には見出せませんでした。賑やかで商業施設があり、便利になるというのも一つですが、今住んでいるところは比較的静かで、騒々しい街になって欲しくないという思いもあり、変に大きなお店ができることに抵抗もあります。

いろいろな考えがありますが、大きな道路がついて、車が通りやすくなることだけが良いことだとは思いませんので、何を以て豊かで活性化というかについては、よくよく考え、多くの意見を聞いていただければありがたいと思います。本日配っていただいた資料についても、できるだけ多くの人が見るようにすれば、今以上に町民1人1人が考え、良いアイデアが出たりするのではないかと思います。

もう一点ですが、財政が厳しく年間7億円の赤字になるとの話がありました。この7億円という数字がどのくらいのものか、住民自身が自分ご

とに置き換えられてないと思います。

住民 1 人の生活レベルの感覚で何かに合わせていただいた方がより危機感が持てると思います。

加えてもう 1 点、高齢者への手厚いサービスについてですが、あるに越したことはないですが、本気で子どもたちや人口を増やしたいというのであれば、おそらく教育費無料化や給食代無料等では効果はなく、例えば子ども 1 人に月 10 万円を支給する等、大胆な策を打ってもいいのではないかと思います。

高齢者にお金を使うことは否定しませんが、私は逆だと思います。子ども世代のために、今以上に手厚くした方がいいと思いました。

町長

若者への支援ですが、20 歳のつどいを迎える方々との話し合い等、様々なところで意見をお聞きする努力はしていて、今後も続けていきたいと思っています。

他とのバランスを見ながら、子どもたちへの支援や教育、子育て環境の充実を目指していきたいと思っています。

住民 F

石海公民館の移転という話がある一方、今日の話の中で旧給食センターをどうするかという話が出てきませんでした。旧給食センターがあのまま朽ちていくのか懸念があります。

また、子育て世代の方々に重きを置くことは良いことですが、子どもを生める環境を作ることも重要です。若い世代の方が太子町に来られている一方、出生率は減っていて、給食費や医療費は保護者が出すことが本来の姿だとは思いますが、子どもが増えればそのような施策についてもより喜ばれるかと思っています。

全国様々なところを見ていると、小さな村でも子どもが 1 人生まれれば何十万円を出すという施策を行っているところもありますが、子どもを増やす取組を少しでも行っていただければと思います。

町長

旧給食センターについては保健福祉会館と文化会館の改修工事、陸上競技場の工事を優先させていただき、撤去に関しても、旧児童館が何年も放置されていたので、今年はそちらを撤去します。

また、旧給食センター跡地に学童保育園を建てる構想もありましたが、公的施設を減らす中で、現在は学童保育園を石海公民館へ移転する方向も考えていて、潰すのか、利活用するのかについては、学校や周辺の関係も含めながら、来年度以降に総合的に検討させていただきます。

5. 閉会あいさつ

榮藤副町長

【閉会あいさつ】